



GREEN PROP

WEBサイト



〒812-0016

福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号

TEL : 092-432-8507 / FAX : 092-432-8508



SUSTAINABLE REPORT 2023

SUSTAINABLE REPORT 2023

P1. 目次/編集方針/会社概要

P3. マネジメントメッセージ

P5. 特集 | 自律分散型組織へ生まれ変わりました

P7. Green propの価値創造プロセス

P9. Green propの理念

P11. 事業内容 | 廃棄物事業

P13. 事業内容 | CSR経営サポート

P15. CSRマテリアリティ

P17. Environment・環境

P21. Social・社会

P25. Governance・ガバナンス

P29. マテリアルバランス

P30. Green propメディア

編集方針

報告対象組織

株式会社Green prop

報告対象期間

2021年7月～2023年6月（※一部対象期間外を含む）

発行時期

2023年10月

参考ガイドライン

環境報告ガイドライン（2018年版）

SDGコンパス

IIRC 国際統合報告フレームワーク

お問合せ先

株式会社Green prop 担当：丸山

〒812-0016

福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号

フリーダイヤル：0120-52-0589

E-Mail：info@greenprop.jp

会社概要

商号	株式会社Green prop
代表者	代表取締役社長 川添 憲二
設立	1985年
資本金	2,000万円
従業員	39名（2023年9月現在）
グループ会社	株式会社ATGREEN Sustaina green株式会社

拠点	本社 福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号 物流本部 福岡県筑紫野市大字永岡1315-10 中国支店 広島県大竹市北栄4-12 東京営業所 東京都中央区日本橋兜町5-1 兜町第1平和ビル3階 大牟田出張所 福岡県大牟田市健老町472番地 大牟田エコタウン内
----	--

FUTURE

W
E
N

FLAT

STAGE

W
O
N
O
T
O
A
U
T
O
M
O
N
Y

T
E
A
M

For Sustainable Tomorrows.

マネジメントメッセージ

持続可能な組織の在り方を探求し、Green propの未来を拓く

経営に携わるようになり約20年間、お客様のお役に立つ存在となれるよう、廃棄物処理のコンサルティングサービスやCSR・ブランドづくり、そして『自創』をキーワードにした組織運営等にも力を入れてきました。2022年には更なる提供価値の最大化を目指し、自律分散型の経営スタイルに移行しました。これは、社員一人ひとりがお客様の課題を考え、その時々での最適解を俊敏に実行していくために行った改革であり、組織づくりもようやく一つの形になりつつあります。ただ、これからも時代は変遷していきます。2024年には労働市場の半数以上はミレニアル世代・Z世代になり、新しい価値観の中でビジネスも展開されていきます。そうすると組織の在り方もまた変化が必要となるでしょう。私は代表取締役会長として、引き続き組織づくりやあらゆる観点からの持続可能性を探求・研究し、社会へ還元できるよう尽力してまいります。

代表取締役会長



『持たざる経営×両ききの経営+慈悲』 でサステナブルな社会を目指す

私が今後展開していくのは、共創を核とした『全体最適』を実現するビジネスです。今やESGのバランスが取れた解決策の実行は必須です。あらゆる観点で最適でないと、ひと時の解決に留まり持続可能とは言えないと考えます。そのための方針は、『持たざる経営×両ききの経営+慈悲』です。当社では運搬車両は保有していますが、処理施設はありません。それでも、全国各地に素晴らしい処理施設を持つパートナーがいらっしゃるので解決策を提供できます。自社保有に執着せず、業界全体でのリソースの最適化も目指して参ります。また、既存事業では絶え間ない改善で安全で安定した取引環境を整備し、次代に合った新規事業開発に向けての実験も繰り返していきます。そこに重要なのは、お客様や社会に共感するだけでなく、実際の行動に変えていく慈悲の心です。この方針で、お客様のビジネスの長期安定と持続可能な社会を目指してまいります。

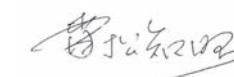
代表取締役社長



現場によりそったソリューションで お客様の課題解決に貢献する

入社から一貫して営業現場の最前線でお客様の課題解決に向き合ってきました。廃棄物処理では法改正や新法への対応、エネルギーや脱炭素など環境トレンドの対応、環境だけでなくESG全体での課題対応など、その時々によって最適解は変化します。現場で起きている現象を俯瞰して見た上で解決策を導き出すことが、私たちのミッションです。ミッション達成のために注力するのは、機動力の向上です。まず、多くのご要望を頂いている関東拠点のサービス提供体制を強化して参ります。また、自律分散型組織となった今、社員一人ひとりが最大限の力を発揮していくことが提供価値の最大化に繋がります。この組織運営スタイル定着にも尽力し、各々の自主経営の精度向上と実行力強化にも努めて参ります。そして、私自身も更なるソリューションを生み出し、より多くの皆様の課題解決に貢献できるよう尽力してまいります。

取締役



持続可能な未来のために、 Green propは新しい体制で 邁進していきます。

2023年10月、役員体制を刷新しました。

代表取締役会長に川添克子、代表取締役社長に川添憲二、取締役役に森松知昭が就任し、3名の役員体制で機動力等を強化しました。

よりお客様をはじめとしたステークホルダーの皆様の課題を解決し、ESG経営の促進、そして持続可能な社会づくりへ貢献していきます。

今後とも、Green propを何卒宜しくお願い申し上げます。



自律分散型組織へ生まれ変わりました



— Governance —

2022年7月、38期のスタートは

「新生Green prop」として迎えました。

これまでのピラミッド型の組織構造からフラットな構造に。

売上から経費を引いて利益を残す考えから、

先に利益を確定して残ったお金で経費を使う会計の考え方に...

全く新しい組織運営スタイルを取り入れて歩みははじめました。

すべては、自律分散型の組織を実現するためです。

なんで自律分散型組織にしたの？

「Green propはみんなの会社」を実現したい！

2003年、廃棄物収集運搬等の保有している許可の範囲だけでなく、全国各地の優良な処理会社様とのネットワークを活かした「廃棄物管理ワンストップサービス」が生まれました。これは多岐に渡るお客様の廃棄物に関する課題に対して、本質的解決策を考え、実行することによって価値を提供していくサービスです。何が最適解かを考えながら仕事することが大切であり「指示をされないと動けない」状態であれば、最適解を導き出すことはできません。自ら考えて自らで判断し行動できる人材を育てていくことは、この当時から人事ポリシーとして取り組んできました。

2020年、35年間の歴史をまとめた社史「Green prop History Book」を発行。前年に発生した火災事故の際に、復興に向けて自ら考えて自ら行動する社員の姿を見た川添は、「Green propは私の会社ではなくみんなの会社」「一人ひとりが幸せで、Green propの一員であることに誇りを持てる会社に成長させていきたい」と綴ることで決意し、これからの組織の在り方を研究し始めました。

そうして出会ったのが、自律分散型の組織運営スタイルです。個々が自主経営して事業を運営していくことで、Green propの提供価値も最大化できると確信し導入しました。

社会の利益と会社の利益と個人の利益がイコールになる。

役割を全うすることで社会に貢献する社会性と自らの成果が自らに還元される経済性、自主経営をすることで自分自身が豊かになる個人性の3つが実現可能になったことによる『個人の利益』。個人の利益を追求することが、会社の提供価値の最大化と持続性の向上につながる『会社の利益』。会社の利益はお客様の課題解決ができた成果として享受でき、さらにその先には社会の持続可能性向上がある『社会の利益』。自律分散型組織に転換することで、当社だからこそ、個人と会社と社会の利益がイコールで結ばれることができます。こんな経営の形ができたことは、自画自賛ですが、経営者として誇りに思います！

代表取締役会長 川添 克子

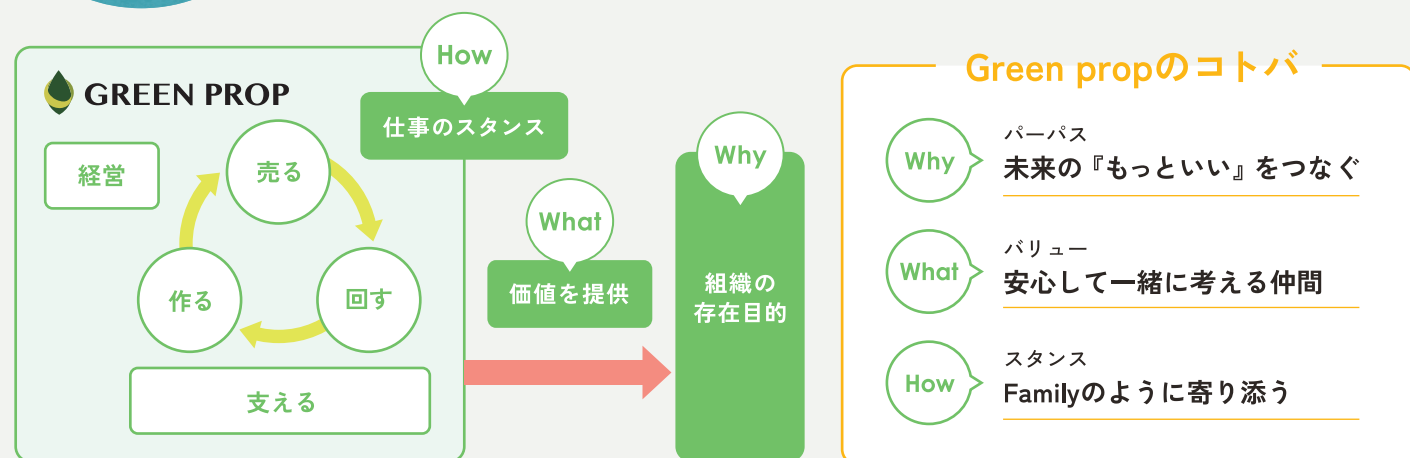


。。変革1。。

組織構造

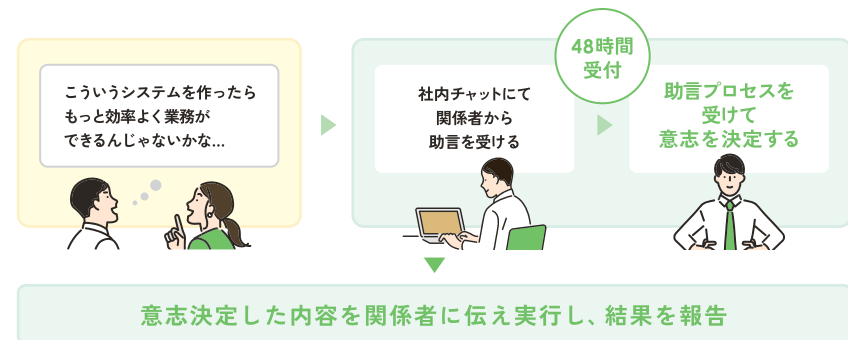
当社の存在目的(Why)、組織活動を通して社会やお客様に提供する価値(What)、そのために大切にする姿勢や想いなどの仕事のスタンス(How)を明文化し、それを実現していくために業務目的ごとにチームを編成しています。チームの中も組織全体でも、上下関係はありません。

一人ひとりが主体的に考え行動していくために、各チームの運営情報や会計・財務情報を全社員へオープンにし、誰でも意志決定ができる助言プロセスというルールを設けました。



助言プロセス

業務目的を果たしていくために必要な課題解決について、誰でもどんな内容でも発案し決定ができる制度です。48時間の助言期間を経て最終意志決定を行います。



。。変革2。。

会計構造

新しい組織運営の仕組みと合わせて、お金を管理する仕組みも進化しました。経理担当と役員のみが把握していた会社のお金は、社員一人ひとりに任せられる仕組みとなり、それぞれのチームや個人のお金の使い方が会社のお財布の増減に直結していきます。経費や人件費を差し引いた額を利益とするのではなく、先に利益を確定しておいて残りのお金で会社を運営していくという、今までとは逆の考え方になりました。

また、社員が会社の資本に参加できる出資制度を新設し、更なる分配をもらえる仕組みもできています。



もっと詳しく知りたい方は
Webサイト特設ページをご覧ください



Green propが考える
社会課題

E
環境

- 気候変動による温室効果ガス排出抑制
- 資源循環の多様化
- 処理困難物の増加

S
社会

- 人口減少
- 持たない購買志向の増加
- 燃料など物価高騰
- IT・IoT・AI化
- 感染症など安全のマクロ化

G

ガバナンス

- リスクマネジメント
- 働き方の多様化
- 人的資本経営の重要性拡大

インプット（主な資本）

人的資本

- 自主経営人材
- サステナブルマインド人材

知的資本

- 多品目・多エリアでの廃棄物処理の知識と実績とノウハウ
- CSR経営の実践経験とノウハウ

社会関係資本

- お客様との長期取引関係
- パートナーネットワーク
- ステークホルダーとの信頼関係

製造資本

- 多様な収集運搬車両

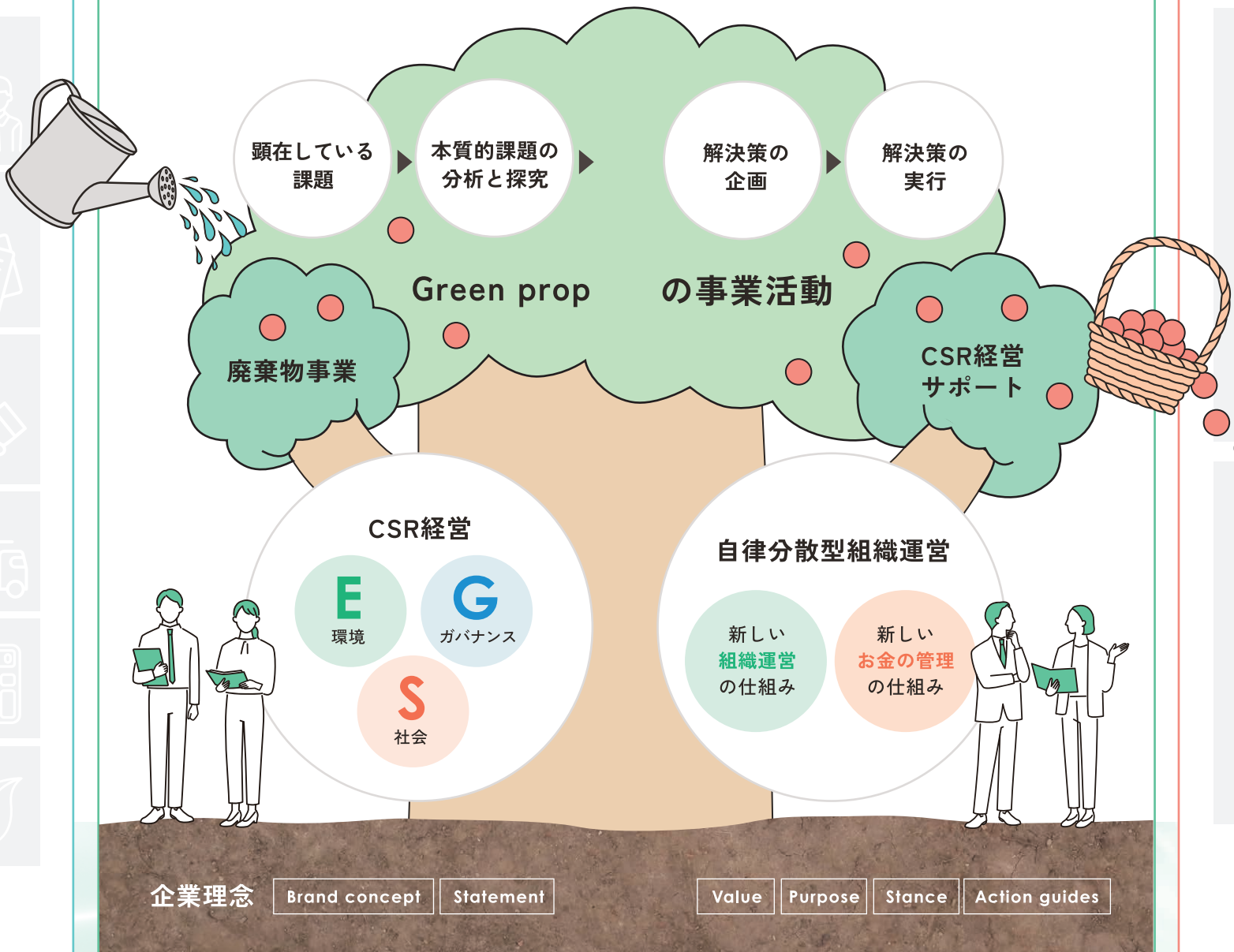
財務資本

- プロフィットファースト

自然資本

- 環境配慮経営

ビジネスモデル・組織運営



アウトプット・提供価値

社外のステークホルダーへの提供価値

ESG課題を解決する
→ ESG経営の促進へ

廃棄物適正処理	リサイクル
資源循環システムの構築	廃棄物管理業務の最適化
サステナブル企業の増加	サステナブル人材の増加

社員への提供価値

社員主体の事業運営
→ 豊かで安定した生活を楽しむ人生

事業継続	自己実現
安定した収入	得意分野を活かす役割

再投資

目指す姿

For Sustainable

Tomorrows. 持続可能な未来のために

For Sustainable Tomorrows.

持続可能な未来のために

STATEMENT

私たちGreen propグループは
持続可能な未来環境を共創する
アライアンスパートナーです。

自然と社会の美しい連鎖と循環を生み出すために
企業はもちろん、自治体、NPO法人、福祉法人など
あらゆる分野の組織体と提携し
人と人、人と社会、人と自然が
もっと豊かに通じ合う未来を
パートナーと共に創りあげていきます。

For Sustainable Tomorrows
ー持続可能な未来のために。

私たちが展開する事業は、
すべてこの一点に帰着します。

その実現を自らのミッションと定め、胸に刻み
前進し続けることを、私たちはここに誓います。

01

未来から今を見つめる。

現在の価値観にとらわれるのではなく、たとえば「50年後、100年後の人々なら、どう考えるだろう」という未来からの視点で物事を考え、プランニングします。
私たちは時代の半歩先を見つめ、決して変化を恐れません。

02

お客様を徹底的に知る。

私たちが最も心を注ぐべきは取引を継続してくださっているお客様です。どうすればお役に立てるのか。自分の考えはいったん脇に置き、相手の話をよく聴いて現状を把握すること。あざやかな問題解決はその先にあるのです。

03

走りながら考える。

仕事を進める上ではスピードを重視します。危険なのは最適解を追い求めるあまり、最初の一步を踏み出さないこと。行動が先。
私たちは常に走りながら新たな情報を取り込み、修正し、結果として最高のソリューションを提供します。

04

今日も笑顔の花を咲かせる。

私たちの大きな特長、それは「よく笑う」こと。
社内でも取引先でも、いつも笑顔で、仕事を乐しみます。壁にぶつかっても笑顔で乗り越え、肩を落としている人がいたら、笑顔で励まします。笑顔は私たちのトレードマークです。

05

人の役に立つことを喜びとする。

お客様、ともに働く社員、取引先、協力企業、同じ地域社会で暮らす人々など、目の前の人のお役に立てたとき、それが私たちにとって何ものにも代えがたい喜びです。
常に「その人のために自分ができる最大のことは何か」を考えます。

06

相手のそのままを受け入れる。

人の長所をうらやんだり、短所を批判したりせず、そのままの相手を受容します。互いの違いを認め、尊重し、苦手を補いあい、良い部分が活かせる環境づくりのための工夫を続けます。私たちは様々な才能の集合体なのです。

07

「儲かりそうだから」では動かない。

業務を継続していく上で、一定の利益は必要です。ただし、「儲かるから」という理由では絶対に動きません。「持続可能な未来のために」というビジョンに沿った事業のみに絞り込み、私たちはその実現に向けてすべての力を注ぎます。

08

会話の終わりに「ありがとう」。

お客様にサービスが提供できるのは、社員だけでなく、協力会社を含めた仲間が存在があってこそです。
お客様への感謝はもちろん、ともに働く人たちとのちょっとした会話の中でも必ず「ありがとう」の一声を掛け合います。

09

常に地球環境を意識する。

私たちは業務を通じて地球環境の改善に貢献します。行動するときは必ず「地球環境の改善につながるか」と自問し、プラスになることだけに注力します。その小さな営みが、地域に、日本に、そして世界に広がることを信じます。

10

「愛」を育み続ける。

すべての根底にあるのは「愛」。
私たちは愛の心を日々、大切に育み、大きくしています。そして、その愛を惜しみなく捧げることで、さらに大きな愛を手に入れます。
この愛のプラススパイラルこそが私たちの仕事の本質です。

廃棄物事業

廃棄物に関するあらゆるお困りごとを解決

事業活動が続ける限り、廃棄物は必ず発生するものです。
私たちGreen propは「持続可能な廃棄物処理」を追い続けています。



Services

廃棄物管理ワンストップサービス

「廃棄物管理」と一言にいても、適正処理やリサイクル方法、業者選定、配車、マニフェストの実績管理など、その業務内容は多種多様です。その複雑な廃棄物管理をすべて一括でお任せいただけるのが、Green propの廃棄物管理ワンストップサービスです。
まるで貴社の廃棄物担当の一員として、貴社独自の「最適な廃棄物処理」の方法を構築します。

merit1	累計約1,200社以上かつ全国ネットワークで知識も実績も豊富
merit2	法律にも精通しておりリスクマネジメントができる
merit3	リサイクルにこだわった提案が可能
merit4	窓口が一つになりご担当者様の業務負荷が低減



サービス詳細（一部）

基本サービス	業者選定
	委託先信用実績確認
	委託契約書準備
	法的手続き書類準備
	配車調整
	マニフェスト管理
	請求一括管理
	実務相談
	運用サポート など
	廃棄物分析手配
オプションサービス	アスベスト等工事請負・業者手配
	廃棄物分別・運用指導
	現地確認代行・同行
	担当者研修の開催
	電子マニフェスト移行サポート
	行政報告書作成支援 など

廃棄物の収集運搬

九州全域はもちろん、中国地方、兵庫県の収集も可能です。
多様な品目の廃棄物収集運搬に対応するために多様な車両を
配備しており、お客様のご要望にお応えします。
さらに、自社車両運行に関するCO2排出量を一部カーボン・
オフセットしており、低炭素運行にも貢献致します。

merit1	広域の収集運搬を1社で可能
merit2	多様な品目を運搬できる車両を配備
merit3	低炭素運行で環境活動にも貢献

保有車種・台数（2023年6月現在）

トレーラー	・・・	1台	10tアームロール車	・・・	3台	4tバックカー車	・・・	1台
ジェットバック車	・・・	11台	7tヒアブ車	・・・	1台	2t冷凍冷蔵車	・・・	1台
13tウイング車	・・・	2台	7tアームロール車	・・・	2台	2tパワーゲート車	・・・	1台
10tローリー車	・・・	1台	4t平ボディ車	・・・	1台	ハイエース	・・・	1台
10tダンプ車	・・・	1台	4tユニック車	・・・	1台	乗用車	・・・	6台
								計34台



廃棄物の資源循環化サービス

廃棄物という概念のない、100%資源循環型社会へ向けて、
現在の運用方法の見直しや新しい資源循環フローの構築ま
でトータルでサポートいたします。
各企業の事業内容やお悩みに合わせて、一つ一つオーダー
メイドでのご提案をさせていただきます。

merit1	豊富な知識と経験で最適のご提案を実施
merit2	リサイクル製品の流通まで考えてご提案
merit3	リサイクル法等にも精通しておりリスクマネジメントにも貢献



CSR経営サポート

Services

「CSR経営」に取り組む企業のベストパートナー

Green propは30年以上、私たち自身がCSR経営を実践してきました。また、まだ社会事業という言葉もない時代から環境事業を行っており、その中で得た経験や実績を元にして、「世のため、人のため」の経営にシフトしたい企業や組織のリデザインをサポートしていきます。



CSR経営を行うメリット



merit1

組織力の強化と経営の安定化

CSR方針を明確にすることは、従業員への企業ビジョンの再確認や周知・浸透にも効果があります。CSRによる従業員の意識改革は企業全体の成長にもつながり、結果的に経営の安定化へとつながっていきます。

merit2

コンプライアンス体制の強化

コンプライアンスとは法令遵守と訳されることが多いですが、法令だけでなく企業が社会的責任を果たすことなども含まれています。そのため、CSRを推進していくことはコンプライアンスの遵守にもつながっていきます。

merit3

ステークホルダーの満足度向上

CSRの対象は、株主、取引先、従業員はもちろんのこと、地域住民など、企業が関係するステークホルダー(利害関係者)全てです。企業として、「どのように社会的課題に向き合い、解決を図っていくか」を発信することは、顧客満足度の向上だけでなく、ステークホルダー全体の満足度の向上に繋がっていきます。

merit4

企業価値・ブランドイメージの向上

CSRへの取り組みは、企業価値や企業ブランドイメージの向上にも繋がります。企業の地域社会への貢献等をCSR活動報告として公開することで、企業の社会的存在の価値を証明し、企業ブランドのイメージを向上させ、競合他社と差別化も期待できます。

サポートの流れ

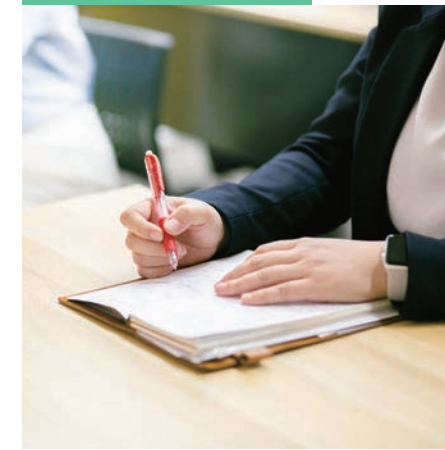
step 01 戦略



CSRコンサルティング

CSR経営を行っていくには、最初にして、しっかりとCSR方針やCSR目標・計画の策定を行い、その後にCSR推進体制の構築・強化が重要です。様々な業界に精通した経験豊富な専用スタッフが貴社のCSR基盤づくりを支援します。

step 02 体制構築



環境・CSR教育

CSRを実践していくのは、実際に働く社員一人ひとりです。CSRとは何か?という基礎教育から、社員の方々に牽引する推進者向け教育、その他必要なテーマに合わせた教育などのCSRカリキュラムを組み、社内でCSRが実践されていく基礎づくりをサポートします。

step 03 レポート



CSRレポートの企画・制作

CSR経営では、企業の取り組みをいかにステークホルダーに伝え、評価を得るかが重要です。「何を、誰に、どうやって伝えるか?」「どのように評価の声を得るか?」の最適な提案を行い、適切なコミュニケーションプランとメディア活用による、「伝わるCSR」をサポートします。

- ビジョン・ブランドコンセプトの整理
- CSR方針とKPIの策定
- CSRマネジメント体制の整備
- 活動実施サポート

- CSR基礎教育
- CSR推進者向け教育
- 各テーマ別教育

- ターゲットの選定
- コンテンツの選定
- メディアの選定
(CSRレポート/Webサイト/動画など)
- フィードバック手段の選定

その他ソリューション



省エネ設備導入

LED照明導入等による省エネを実現、低炭素の事業運営に貢献します。



ライフサイクルアセスメント

製品やサービスの原料調達から廃棄に至る一生での環境に対する影響を定量的に評価します。



カーボンクレジット

CO₂排出について自らで削減できない分を、他の場所での排出削減・吸収量にてオフセットします。排出権クレジット創出もサポートします。

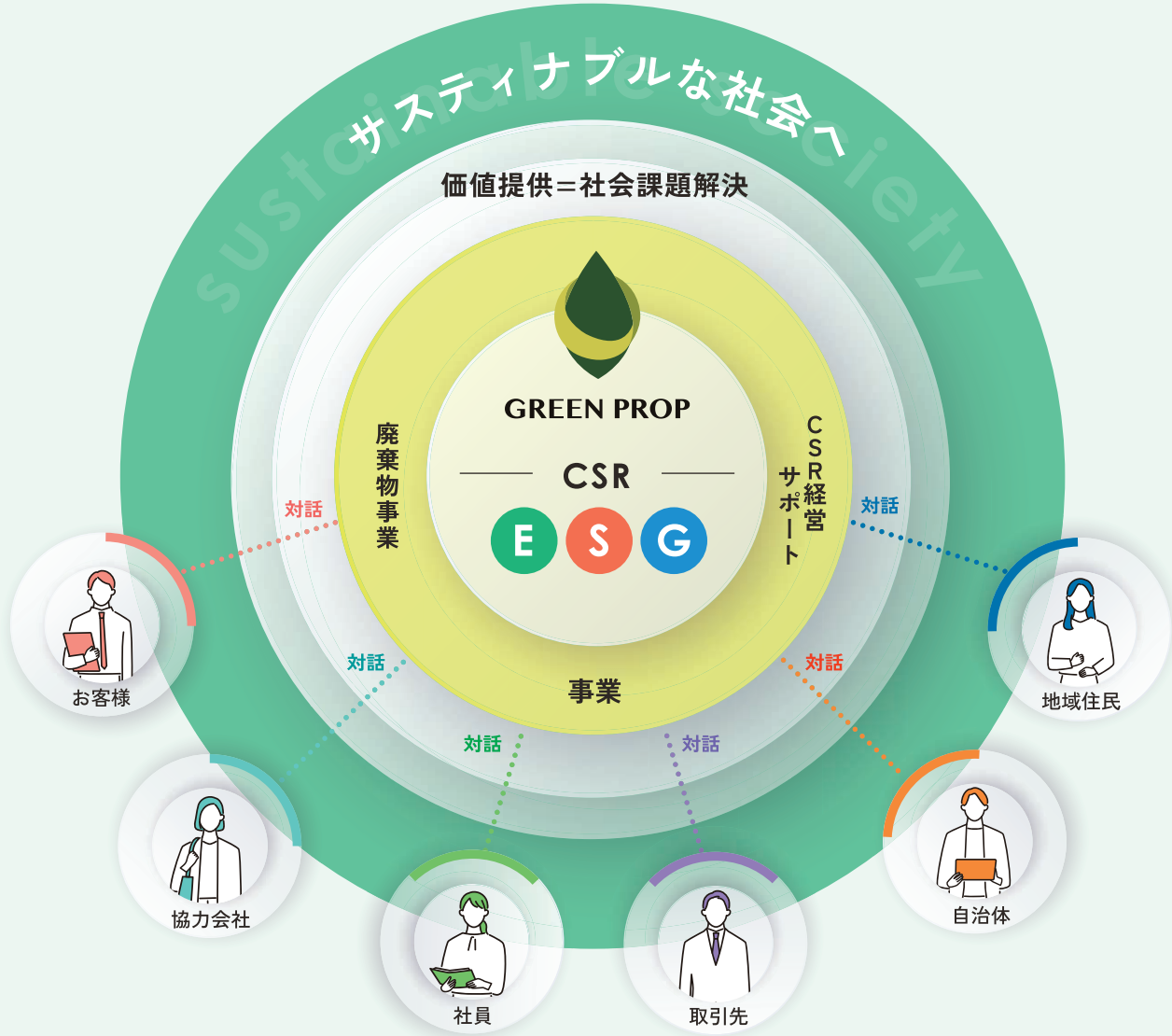


環境ラベリング

エコリーフ、カーボン・フットプリント等のラベル認定、手続きなどをサポートします。

持続可能な組織の実現には、CSR（企業の社会的責任）は必要不可欠なものです。自社のビジネス環境やステークホルダーの皆様からの期待や要望を考慮し、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点で重要課題（マテリアリティ）を特定し、CSRの道筋を定めて活動を実施しています。

Green propは、CSRを核とした経営を推進することで社会課題の解決という価値を提供し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

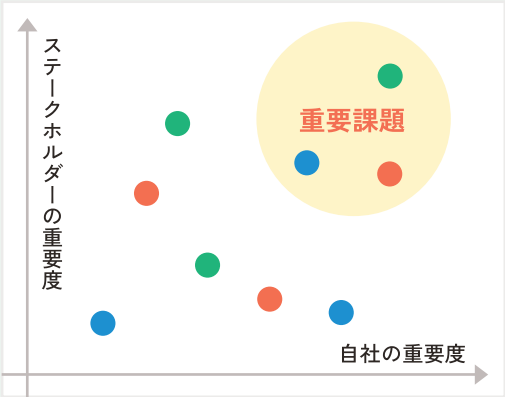


重要課題の特定プロセス

まず、ESGの観点から、社会課題の把握を行います。社内のESG課題はもちろん、SDGs（持続可能な開発目標）といったグローバルな課題についても把握・整理を行いました。

次に、整理した社会課題について、ビジネス環境を踏まえた上での「自社の重要度」、ステークホルダーからの期待や要望を加味した上での「ステークホルダーの重要度」を評価し、それぞれの重要度が高いものを「重要課題」として特定しています。

特定した重要課題は、解決に近づいているかを測るKPI（重要業績評価指標）を設定し、定期的にモニタリングしていきます。



Environment 環境

重要課題 01	KPI	KPI	KPI	KPI	KPI
脱炭素社会	CO ₂ 排出量	売上あたり電気使用量	走行距離あたり軽油使用量	収集運搬車両平均燃費	太陽光発電量
 	[2022年度実績] 1,147.3t -CO ₂	[2022年度実績] 35.7 kWh	[2022年度実績] 279.61 L/百km	[2022年度実績] 3.58 km/L	[2022年度実績] 1,272,787kWh

重要課題 02	KPI	KPI
資源利用	従業員1人あたり水使用量	グリーン購入適合製品比率
	[2022年度実績] 5.2m ³	[2022年度実績] 22%

重要課題 03	KPI	KPI
廃棄物管理	従業員1人あたり一般廃棄物排出量	取扱廃棄物量
  	[2022年度実績] 53.9kg	[2022年度実績] 106,148.0t

Social 社会

重要課題 01	KPI	KPI
安全衛生	事故・労災発生件数	ドライブレコーダー平均点
	[2022年度実績] 9 件	[2022年度実績] 82.7 点

重要課題 02	KPI	KPI
地域コミュニティ	地域活動参加・実施件数	環境・CSR教育実施件数
  	[2022年度実績] 19 件	[2022年度実績] 13 件

重要課題 03	KPI	KPI	KPI
人財経営	従業員1人あたり売上高	平均年収	平均勤続年数
   	[2022年度実績] 2,651 万円	[2022年度実績] 539 万円	[2022年度実績] 6.6 年



Governance ガバナンス

重要課題 01	KPI
自律分散型組織運営	労働分配率
  	[2022年度実績] 45.7%

重要課題 02	KPI
事業継続	BCP策定と運用
  	[2022年度実績] BCP策定中

E

環境

Environment

創業より『廃棄物』という観点から環境問題に携わってきました。

時代の変遷に合わせて様々な環境問題がテーマとなっているように、

何事も豊かな自然環境・地球がないと、

わたしたちは安心した生活も企業活動もできません。

すべての活動は環境をベースに成り立っています。

喫緊の課題である脱炭素社会の構築と

長年培ってきた経験やノウハウを活かした

廃棄物の適正処理・リサイクルを通じて、

私たちの環境保全を実行していきます。

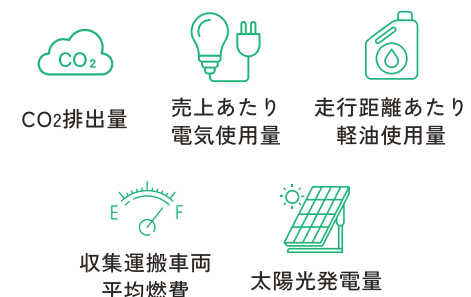
重要課題 01 脱炭素社会



気候変動により、自然災害は多発し、温室効果ガス排出量を抑制することは世界的に喫緊の課題です。

エネルギー利活用の最適化を行い、脱炭素社会の構築に貢献します。

KPI



重要課題 02 資源利用



事業活動を行っていくには、資源の利用は必要不可欠です。

より環境に配慮したものを大切に利用し、持続可能な未来に貢献していきます。

KPI



重要課題 03 廃棄物管理



廃棄物の適正処理・資源循環システムの構築はGreen propの社会的使命です。当社が排出する廃棄物の管理はもちろん、本業によるあらゆる組織の最適な廃棄物管理を実現します。

KPI



01 エコアクション21での環境マネジメント

当社の展開している廃棄物事業・CSR経営サポート事業は、環境側面でマイナスの影響もあれば、プラスの影響もあります。この影響と、経営における課題・チャンスをつ捉えた上で、環境経営方針・環境経営目標を設定し、環境マネジメントを行っています。

2021年度は中国支店も本格的に活動をスタートし、2022年11月に追加・拡大して更新認証を受けました。また、最新版の環境報告ガイドライン（2018年版）へ更新も行っております。

外部認証を受けての環境マネジメント歴は20年となりました。

今後も日常に沿ったマネジメントを継続していきます。

対象範囲(認証・登録範囲)



環境省
エコアクション21
認証番号：0012896

対象事業所：
本社、物流本部、中国支店
事業活動：
産業廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
一般貨物自動車運送事業
環境コンサルタント業

2019年4月1日
株式会社Green prop
代表取締役 川添 克子

環境方針

ー 基本理念

持続可能な未来のために、事業活動と密接に絡んだ環境影響の改善を推進する。

ー 行動方針

1. 環境影響を管理するためのPDCAサイクルを確立・運用し、環境パフォーマンスの向上に向けて継続的な改善を図ります。
2. 環境関連法規の遵守とともにステークホルダーとの対話を推進していきます。
3. 省資源・省エネルギー化を図り、事業所における環境負荷低減に努めます。
4. 資源循環を当社の使命と捉え、ステークホルダーへ資源効率向上の促進を行います。
5. SDGs達成に向けて、特に環境・CSR分野におけるコミュニケーション活動を推進し、ステークホルダーと共に持続可能な未来環境の共創を目指します。

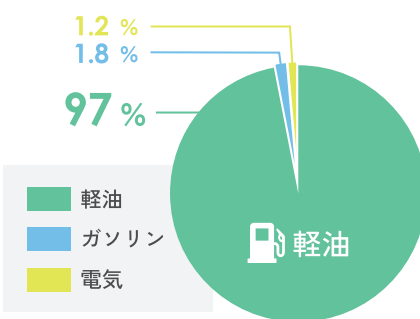
02 軽油使用量の削減に向けて

脱炭素社会



当社ではScope1・2領域におけるCO₂排出量をモニタリングしています。その内訳を見ると、排出量の97%は収集運搬車両の軽油使用によるものです。軽油使用の適正化を重点的に取り組んでおります。2021・2022年度は燃料費の高騰もあり、より日常的な活動を強化しました。独自のエコドライブの実践ルールを定めたり、車両ごとの燃費管理も強化したことで使用量削減につながっています。低燃費型の車両導入という技術的改善を適宜進めつつ、日常の環境配慮活動に力を入れていきます。

CO₂排出量構成

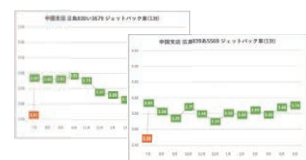


Action1 エコドライブ推進

「エコドライブ10のすすめ」を基本マニュアルとしており、それに加えて高速道路での速度制限など自社ルールを設けています。運転結果はドライブレコーダーで個人点数が可視化されます。月間平均点を共有することで更なる改善に繋げています。

Action2 車両ごとの燃費管理

一人ひとりがエコドライブを行った結果を表す指標が燃費です。38期は燃費管理様式を更新し、車両ごとの燃費と推移グラフを毎月物流本部・中国支店で情報共有するようにしました。燃費データは車両整備や運転指導等にも活用しています。



03 収集運搬におけるカーボン・オフセットの実施

脱炭素社会



1年間で収集運搬車両走行に伴って排出されたCO₂排出量の一部をカーボン・オフセットしました。オフセット量は年間CO₂排出量の約13%に当たる150t-CO₂になります。

今回は、デジタコやドラレコによる運転指導を含めたエコドライブ推進、より燃費効率の良い車両の導入など事業活動に伴うCO₂排出削減活動を行いました。更にカーボン・オフセットを実施することで、脱炭素社会への貢献を推進していきます。



カーボン・オフセットとは？

排出されるCO₂のうち、自分たちでどうしても削減できない排出量の全部または一部に関して、他の場所での排出削減・吸収量によって埋め合わせ(オフセット)することです。

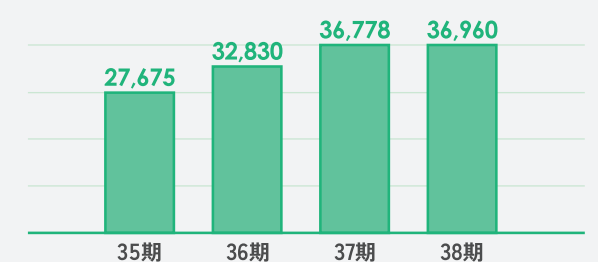
04 電気使用量の削減に向けて

資源利用



当社の電気使用量は事務所利用が中心で、その中でも空調使用が大きく占めています。コロナの収束による来客や対面での会議増加などが考えられ、38期は前年比で見ると微増となりました。また、近年の猛暑や寒波を考えると、過度な空調使用制限は生産性はもちろん健康被害にも大きな影響が考えられます。一人ひとりが大切に使用する意識を持ち、現在の取り組みを着実に継続していくことで、適正な電気の利用を行っていきます。

電気使用量推移 (kWh)



05 廃棄物管理Webサービス「CHACHAT」拡大

廃棄物管理



「CHACHAT（チャチャット）」は、オンライン上に自社の廃棄物情報を集約し、ビデオ通話や各種電子サービスと複合化させることで非対面での廃棄物管理を可能にする、当社独自の廃棄物管理Webサービスです。

38期は新たに工事会社様を中心に導入させていただきました。全国エリアで多くの排出現場の廃棄物管理が必要な中で、一元的な管理ができるCHACHATが活躍しています。

今後も機能やサポート等をさらに充実させ多くの皆様にご利用いただき、排出事業者様の適正な廃棄物管理に貢献できるよう精進してまいります。

CHACHATユーザー事例

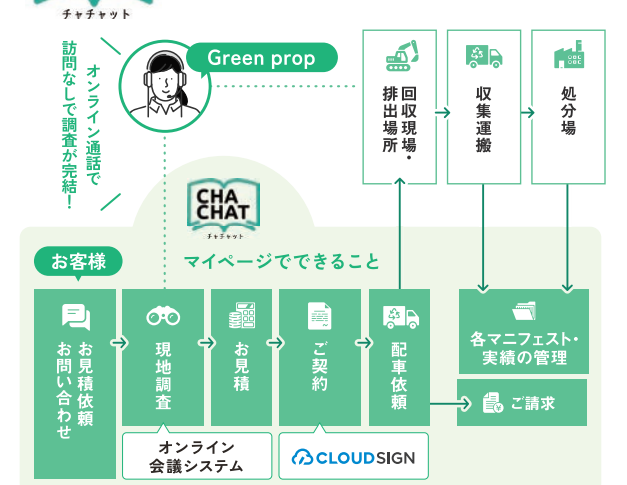
47都道府県で年間約400現場

全国エリアの工事廃棄物を管理するのが大変...



- ✓ CHACHATなら!
- ✓ 全国の廃棄物発生状況を一元管理可能に!
- ✓ 現場・契約・会計など複数担当者様の管理業務時間を短縮!

ならお見積りから
契約・廃棄・実績管理まで
すべてマイページで管理できます!



CHACHAT について詳しくはこちら ▶▶



S

社会

Social

社会は、人と人との繋がりで形成されています。

家族も、チームも、会社も、仕事も、

人の集合体によって形成されているものです。

また、人の力によって事業展開ができ、力が発揮されることによって
社会はどんな形にも進化していきます。

人を基軸に、安全や繋がり、成長を応援していくことで、

社会に必要とされ、広く社会で活躍できる

人や組織への進化を目指します。

重要課題 01 安全衛生



一人ひとりの健康と事業における安全確保は、
組織運営において必須項目です。
安全を最優先した職場環境づくりを行い、
あらゆるステークホルダーの皆様の安心へ繋がります。

KPI



事故・労災
発生件数



ドライブレコーダー
平均点

重要課題 02 地域 コミュニティ



当社の存在目的は、多くのステークホルダーと
協働することで果たすことができます。
あらゆるステークホルダーの皆様との繋がりを深め、
未来のもっといいを紡いでいきます。

KPI



地域活動参加・
実施件数



環境・CSR教育
実施件数

重要課題 03 人財経営



自律分散型の組織運営は、人財の活躍によって成り立って
います。スタッフ一人ひとりが広い視野を持ち、自主経営を
していくことによって事業運営を行い、社会に価値を提供して
いきます。

KPI



従業員1人あたり
売上高



平均年収



平均勤続年数

01 定期安全教育 「安全の日」開催

安全衛生



2019年に発生した火災事故を風化させず、安全を最優先した事業運営を行っていくために、毎年3月に「安全の日」と題して拠点ごとに安全教育を行っています。（中国支店は運行の関係上、毎年11月に実施しています。）
担当する事業や業務とチームの状況に合わせたプログラムを企画し、外部のステークホルダーとも連携しながら開催しています。今後も毎年開催し、全社員で安全な職場環境づくりを行ってまいります。

本社



避難訓練・安全運転講習

営業・事務メンバーが所属する本社では、火災を想定した避難訓練と安全運転講習を実施しました。
設定している緊急事態対応マニュアルを基に、火災が起きた場合の対応手順と避難はしごの設置デモンストレーションを、安全運転講習は、事故回避トレーニングとして駐車場や高速道路等で想定されるヒヤリハットの動画を見ながらどう行動すべきかディスカッションを行いました。また、運転適性診断も実施し、自分の運転スタイルの特徴を客観的に見直し、安全運転に向けての改善を図りました。

物流本部



安全運転作業・避難訓練

ドライバー拠点である物流本部では、安全運転・作業教育と避難訓練を行いました。
今回の安全運転・作業教育は、改めてプロドライバーとしての心得をみんなで共通認識として持つことを目的とし、プロとしての運転マナーやモラル、トラックの構造的特徴、車両整備の注意点など基礎教育、過去の作業事故事例を振り返り、潜んでいる危険箇所の再認識を図りました。
避難訓練では、火災を想定した通報訓練と水消火器を使った初期消火デモンストレーションを実施しました。

中国支店



安全作業・緊急事態訓練

焼却灰リサイクルの運行を中心に行っている中国支店では、事故事例を活用したより安全作業対策をディスカッションしました。
廃棄物の飛散・漏洩の事故事例をピックアップし、ジェットパック車での作業手順を一つ一つ確認しながら、どの作業を行う時に何に気をつけて行うか、作業手順書から更なる安全対策として個々が実行していることや万が一を起こさないための行動をディスカッションして標準化を行いました。また、改めて車両構造の説明も行い、慣れによるヒューマンエラーの防止も図りました。

02 公式Instagram開設

地域
コミュニティ



当社のさまざまな活動をより多くの方に知っていただくことを目的に、2022年8月より公式Instagramを開設しました。

環境・CSR活動や廃棄物適正処理・リサイクルに向けて運行する収集運搬車両など、当社の「今」を写真を中心に情報発信しています。各拠点のメンバーで編成しているチームにて運営を行い、内部コミュニケーションの活性化にもつながっています。

環境・CSRに興味を持つ方が少しでも増えるよう、廃棄物処理・リサイクル・CSRなど、広く一般の方に向けての情報発信にも力を入れていきます。



03 ノベルティで地域を応援

地域
コミュニティ



毎年制作するノベルティは『エシカル』をテーマに企画しており、地域からの調達を意識して行っています。

2022年はmanucoffee様（福岡市）にてオリジナルコーヒードリップパックを作成しました。コーヒーの美味しさはもちろんのこと、店舗から出るコーヒーかすを肥料にリサイクルし、その肥料を使った野菜づくりの取り組み、紙製のパッケージや植物由来の原料インク(一部)での印刷など、環境に配慮した商品作りにも共感し選定しました。
これからも調達を通じて地域を応援して参ります。



04 NPO団体との 協働ボランティア活動を実施

地域
コミュニティ



地域課題の解決に向けて活動する団体を応援したい思いから、ボランティア活動を積極的に行っています。

NPO法人いるか様（福岡市西区）は訪問介護や学習支援・子ども食堂などで高齢者や子どもたちの支援を行っている団体です。今回は学習支援に向けて寄付される机や椅子などの什器を運搬するボランティアを行いました。当社ウイング車での運行、荷積み・荷下ろしに12名のスタッフが参加し、新たなステークホルダーとのコミュニケーションから地域課題への理解を深めました。



05 助言プロセスによる 意志決定

人財経営



自ら考えて自ら意志決定をして実行する経験の積み重ねが、自律に繋がると考えています。助言プロセスは、それを実現する仕組みの一つです。事業セクションごとに編成されたチーム内にて、小さな改善から大きな経費使用まで「やりたい!」という人が意志を表明し、関係者からの助言を受ける期間を経て意志決定します。誰でも発動可能で、社歴や金額に制限はありません。この1年間で53回の助言プロセスが発動されました。
今まで稟議によって行ってきた物事の決定を個人が行うことによって、より強い責任感が生まれ、最後まで全うする姿が多く見られました。





ガ
バ
ナ
ン
ス

Governance

目まぐるしく社会が変化し「答えのない時代」に突入した中で、
コーポレート・ガバナンスの在り方も
積極的に問うて変化させていくことが、
企業の持続可能性向上に大きく影響してきます。
Green propは、経営・管理層による管理型運営スタイルから
社員一人ひとりが自主経営を行うことで運営する
自律分散型組織運営スタイルに移行していくことで、
さらなる提供価値の最大化を行い
存在目的を果たしていきます。

重要課題 01 自律分散型組織運営

新たな事業運営スタイルとして導入した自律分散型の組織運営をさらに定着し加速させていくことで、時代の流れにスピード感を持って自らを変化させ、社会の期待に応えることができる、サステイナブルな企業を目指します。



KPI



労働分配率

重要課題 02 事業継続

安定した廃棄物処理が確保できているからこそ、私たちの社会・経済が動いていると考えています。有事の際でも早期復旧して事業継続ができる計画と備えを行い、社会インフラの一部として機能を果たします。



KPI



BCP策定と運用

01 福岡県・福岡市のSDGs登録制度に登録

Governance



現在、全国の地方自治体で地方創生SDGs登録・認証等制度が創設されています。38期は、本社・物流本部で「福岡県SDGs登録制度」、本社は更に「福岡市Well-being&SDGs登録制度」にも登録を行いました。

ESGの観点から、CSR全般で現在行っているSDGsに向けた取り組み等と今後の取り組み方針について登録をされています。今回登録に向けて精査することで、地域課題をより把握することができ、今後の取り組み方針を見直す機会にもなりました。CSR経営でSDGs達成にも貢献できるよう精進して参ります。

地方創生SDGs登録・認証等制度とは？

2020年10月に発行された「地方公共団体のための地方創生SDGs登録・認証等制度ガイドライン」を基に各地方自治体がSDGsに取り組む企業や団体を応援する制度です。
SDGsに取り組む意思を宣言する『宣言』、SDGsの取り組みを表明・自己評価し登録する『登録』、第三者がSDGsの取り組みを評価し認証する『認証』の3つの制度モデルがあります。

福岡県SDGs登録制度



福岡県内のSDGsに積極的に取り組む企業や団体を県が広く公表し、SDGsへの貢献を「見える化」することを目的とした制度です。
2023年2月7日に第1期の福岡県SDGs登録事業者として、Green prop 本社と物流本部が登録されました。

福岡市Well-being&SDGs登録制度



福岡市内に事業所を有する事業者等を対象に、「働く人」のWell-beingの向上とSDGsの達成に向けて取り組む事業者等を応援する制度です。2023年1月、Well-beingの取組みとSDGsの取組みの実施内容を登録する「マスター」の事業者として登録されました。

02 BCP（事業継続計画）の策定

事業継続



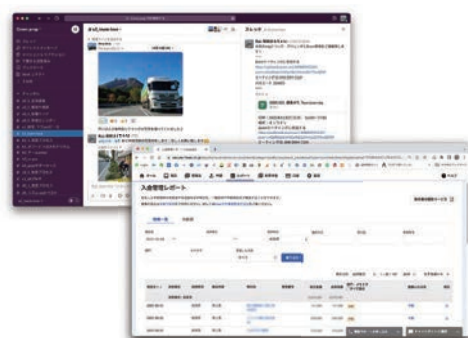
BCPとは、自然災害など有事の際に事業資産の存在を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続や早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や事業継続のための方法・手段等を取り決めておく計画のことです。2023年から本格的にBCP策定に向けて取り組んでいます。拠点地域のハザードマップを基にした災害想定、あらゆる経営指標や事業別の現状も踏まえた中核事業の設定、平常時の対策活動と有事が発生した場合の手順書等の整備を順次進めており、2024年3月に完成の予定です。完成後はスタッフみんなでの運用に努めてまいります。

03 組織情報の見える化

自律分散型組織運営



広い視野で事業を進め、経営者感覚で仕事に取り組むことができるようになるために、社内のあらゆる情報を見える化しました。1つ目は、全チームの活動情報です。社内のやり取りをチャットツールに集約し、全チームの動きを全スタッフが閲覧できるようにしています。2つ目は、会計・財務情報です。口座の残高や入出金の情報が集まるクラウド型会計ソフトも全スタッフが閲覧できます。それぞれが関わる事業のお金の使い方を考える材料となり、意志決定のスピードや精度も上がっています。



04 自律分散型の組織運営スタイルに移行して1年

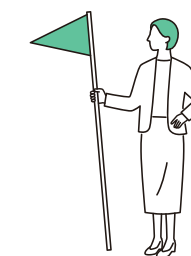
自律分散型組織運営



2022年7月よりスタートした自律分散型の組織運営は、当社のガバナンススタイルの大改革となりました。この組織運営スタイルを定着させていくこと、つまりスタッフ一人ひとりの自主経営を促進させていくことは、ガバナンス面のあらゆる課題解決につながると考えております。まだまだ始まったばかりで試行錯誤も多いですが、全て健全に進んでいる証拠だと考えております。当社の持続可能性の向上だけでなく、私たちの歩みがこのような組織運営スタイルに興味・関心がある方の何かの力にもなるよう、発信も含めて全力で取り組んでまいります。



Green prop 自律分散型組織運営1年間の歩み



2021.10 自律分散型組織への転換に向けたプロジェクトスタート！

新しい組織運営スタイル構築に向けて約9ヶ月かけて準備を進めていきました。

2021.12 初の助言プロセスで決めたのは、Green propの大切にしている言葉「Why・What・How」

約3ヶ月間、当社の存在目的（Why）、提供する価値（What）、仕事のスタンス（How）を明文化するために喧々諤々と議論してきたプロジェクトメンバー。たくさんのアイデアからどんな言葉にするかなかなか決まらずにいた中で、一番意志が強い人が決定するという助言プロセス方式を採用。これまでの決まらない時間が嘘のように、スムーズにみんなが納得した言葉に決定しました！決定した言葉は社員のイラストと共にポスターにし、全社員へ説明を行いました。

2022.07 新しい組織運営スタイルへ、Green prop再起動式を開催！

そこから当社内で必要な業務・役割を整理してチーム体制を構築し、会社として企画・運営する最後の経営方針発表会を開催。この発表会は、自律分散型組織としてのGreen propへ再起動をすることを意味していました。

2022.09 最初の1クールが終了。経費・出資分配金は...

自律分散型組織運営では、3ヶ月に1回、事業経費口座や利益口座が締められ、経費分配金や出資分配金という形で社員に成果が還元されます。初めての1クールが終了し、無事に分配金が提示されました！今までにない会計手法で仕組みはわかっても半信半疑だった社員も多かったのでは...分配を確認し、みんなの動きが少しずつ変わっていったことは言うまでもありません！

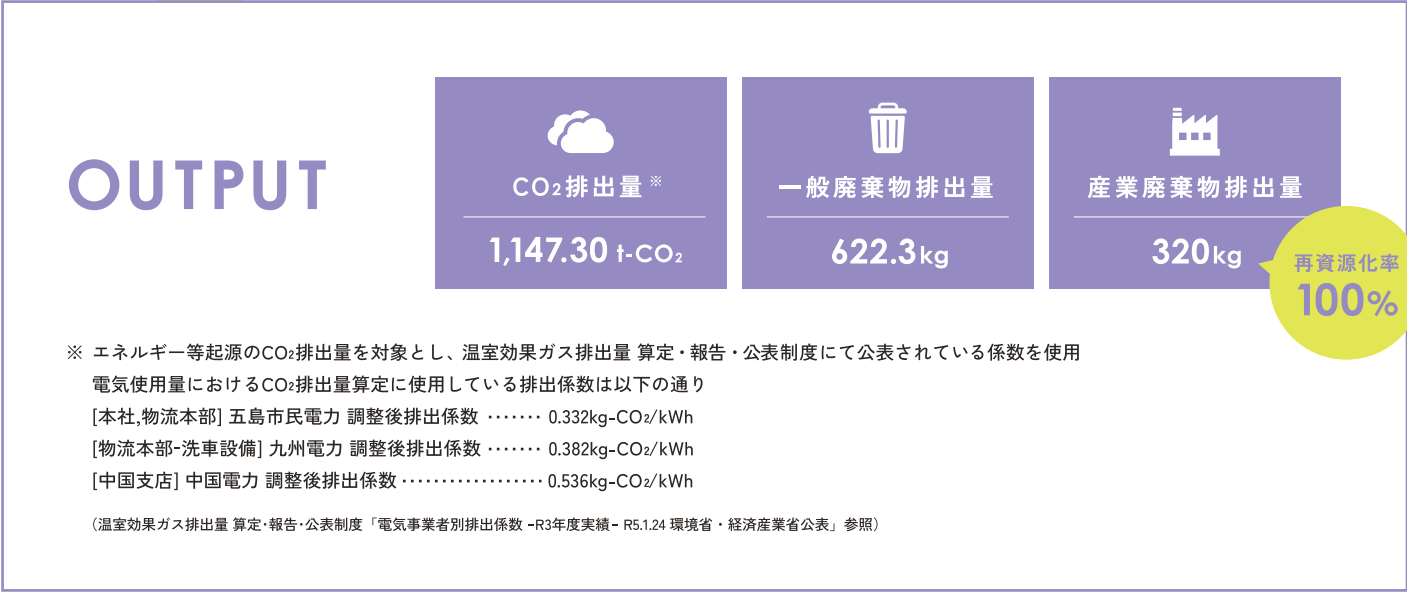
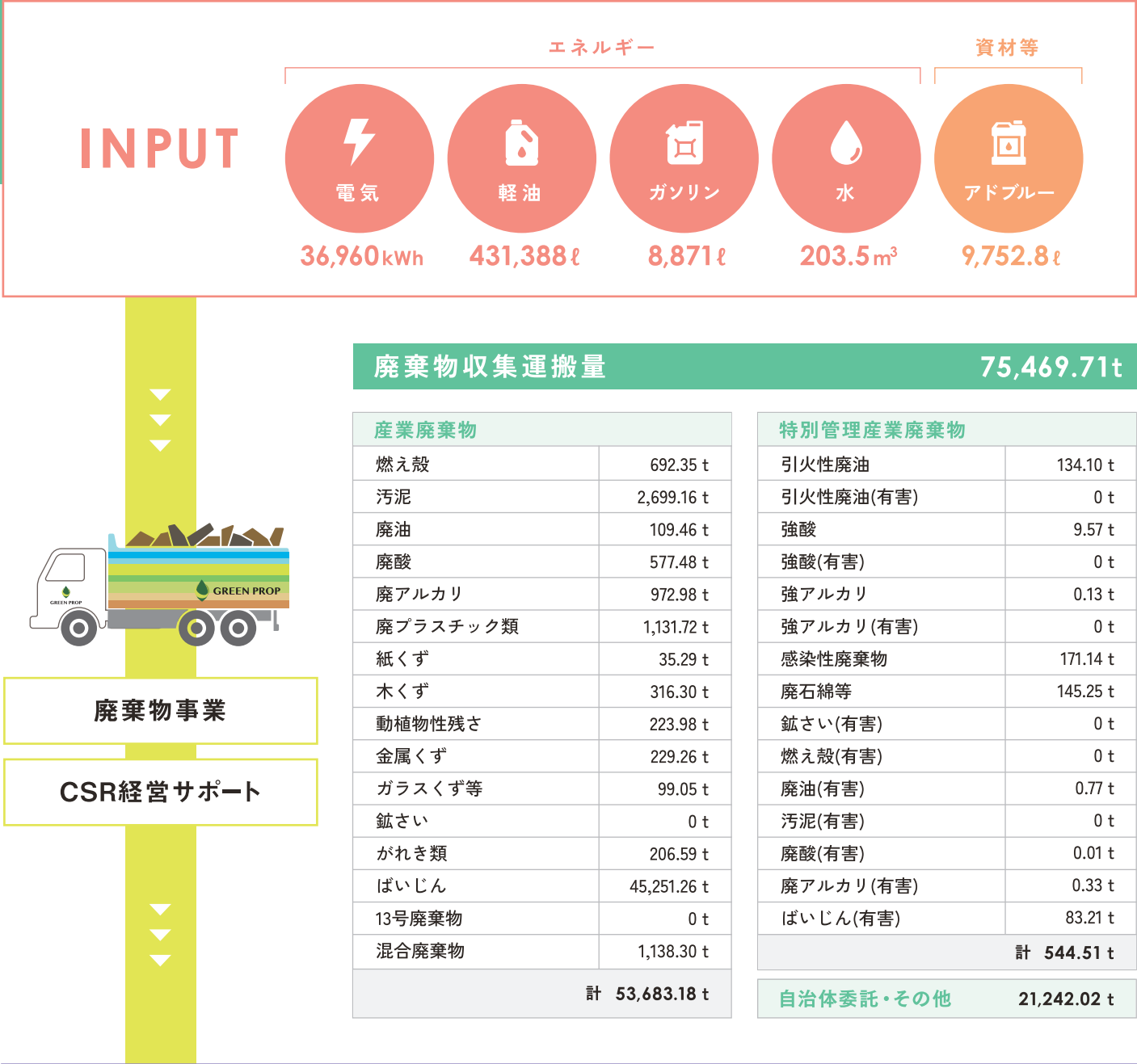
2023.01 開始半年で組織変更！拠点ごとの3チーム体制へ変革！

廃棄物収集運搬や廃棄物管理ワンストップサービス、CSR経営サポートと多様な事業を行っている中で、意志として発案しても他の事業の助言が難しかったり、頑張った成果が分配金として現れにくいことが発覚。この現状を打破するべく、本社営業、物流本部運搬、中国支店運搬と、事業セクションごとにチームを編成し会計も分けて運営を行う、3チーム体制に変更しました。うまくいっていない時にすぐに新しい策に切り替えができるのも、自律分散型組織ならではの強みです。

2023.06 最初の1年が終了。決算の結果は...

試行錯誤の連続であった初年度が終了し、新しい組織運営スタイルで初めての決算を迎えました。結果として、売上は微増、諸経費は約19%削減し、給与・賞与は約17%向上するという結果になりました。概ね良い結果として考えておりますが、まだまだ課題は山積みです。引き続きスタッフと共に壁を乗り越え、この組織運営スタイルの定着に精進してまいります。

マテリアルバランス



Green prop MEDIA

当社の情報は様々な媒体で発信しております。みなさまぜひご覧ください。

総合情報

Webサイト

会社概要や事業内容、CSR方針など、当社に関わる全ての情報と最新情報を更新しています。

CSR情報

Sustainable Report

CSR (企業の社会的責任)についての方針や計画、活動報告などをまとめたレポートです。

環境・CSR情報

コラム

廃棄物やエネルギー、CSRやSDGsなど、環境・CSRに関する様々な情報を、Green propフィルターを通してコラムという形で発信しています。

Green prop最新情報

メールマガジン『GREEN PROGRESS』

当社の出来事やコラムの更新、その他皆様へのお知らせなどをお届けするメールマガジンを配信しています。

Green propの日常

公式SNS

Green propの日常の一コマを切り取って公式SNSでお伝えしております。